

後期栄養を維持！ 穂肥施用と飽水管理を確実に !!

1 生育状況（葉色：SPAD 値）

- コシヒカリの葉色はこれまでの濃い状態から徐々に褪めてきており、指標値「並」。新之助の葉色はまだ「濃い」状態が続いている。

品種		7月27日	7月20日	7月8日
コシヒカリ (調査点数 10)	本年値	34.1	35.5	37.4
	指標差	+0.7	+1.7	+1.4
新之助 (調査点数 5)	本年値	36.0	37.0	38.1
	指標差	+2.0	+3.0	+2.1

2 今後の天気（7月25日～8月24日：新潟地方气象台7月23日発表）

期間の前半は降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込み
 気温：ほぼ**平年並** 降水量：**平年並か多い** 日照時間：平年並みか**少ない**

3 今後の栽培管理

(1) コシヒカリの穂肥対応

ア 2回目穂肥：後期栄養を維持するため、出穂期10日前に確実に施用する。

○ 1回目穂肥を施用しなかった場合でも確実に施用する。

○ 1回目穂肥を遅めとした場合、1回目の7日後をめやすに2回目を施用する。

イ 3回目穂肥の考え方

登熟期の高温が予想され、かつ葉色が薄い（有機50%肥料減減栽培で出穂6日前でSPAD値33以下）場合は、3回目の穂肥を窒素成分で1kg/10a程度施用する。

ウ 基肥一発体系における追加穂肥の考え方

出穂期10日前までに葉色がSPAD値33を下回る場合や、出穂期にSPAD値33を維持できないと予想される場合は、窒素成分で1kg/10a程度をめやすに追肥する。

(2) 水管理

飽水管理を継続する。フェーン情報に注意しフェーン時や異常高温時には速やかに湛水し、稲体の水分不足による障害発生防止に努める。

(3) 病虫害防除

・いもち病が管内各地で確認されているので、コシヒカリBL以外の品種で発生が確認された場合は、液剤か粉剤で直ちに防除する。

・カメムシ斑点米対策として 雑草が結実しない間隔で、農道・畦畔の草刈り及び水田内の除草を継続する。

メルマガ登録募集中！

登熟期のフェーン発生情報を直接提供します

件名「作物技術情報メルマガ登録希望」、
本文に「名前」「住所」「電話番号」をご記入ください。
〈申込先〉 ngt112130@pref.niigata.lg.jp 又は QR コードから！

